

赤ちゃんとお酒

お母さんの飲酒は、赤ちゃんに大きな影響を与えます

妊娠中の飲酒

胎盤を通じて赤ちゃんにアルコールが運ばれ、早産・流産・死産のリスクを高めたり、赤ちゃんに「胎児性アルコール症候群」を引き起こす可能性があります。



胎児性アルコール症候群

低体重などの発育障害、知的障害、特徴的な顔つきで生まれる顔貌異常や、ADHD（注意欠陥・多動性障害）を引き起こす可能性があります。



授乳期の飲酒

母乳を通じて赤ちゃんもアルコールを飲んでしまうことになり、体重が増えない、いつも眠っているなど、さまざまな影響を受けます。

お酒を飲み続けると、お母さんの身体や赤ちゃんの成長を妨げることがありますので、妊娠に気づいたらお酒をやめましょう。また、妊娠に気付かずお酒を飲んでいる場合もありますので、妊娠の可能性のある人はお酒をやめましょう。

妊娠中に困っていることがあれば、相談できる場所があります。

ひとりで抱えこまず、

市町村母子健康担当窓口へご相談ください。